

第21回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年11月24日（金）

開議 13時 30分

閉議 15時 19分

第2委員会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長

村木委員、村武委員、柳楽委員、~~岡本委員~~、芦谷委員、~~川神委員~~

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井次長、小寺書記

議 題

1 地区まちづくり推進委員会との意見交換について

(1) 聞き取り内容調整

(2) 実施方法確認

(3) その他

2 提言内容確認について

(1) 修正箇所確認

(2) その他

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 30 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第21回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。今日の議題は、地区まちづくり推進委員会との意見交換についてと、提言内容を修正した点の確認について、この二つの議題で主に進めたい。

1 地区まちづくり推進委員会との意見交換について

(1) 聞き取り内容調整

○西田委員長

委員から質問事項をたくさん出してもらった。今日はそれをどれくらいまでの項目に絞るか、どの質問を取り上げるか、そういった点について協議をしたい。事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○西田委員長

ヒアリング項目一覧が出ている。ここで暫時休憩とする。

[13 時 32 分 休憩]

[13 時 58 分 再開]

○西田委員長

会議を再開する。まちづくり推進委員会との意見交換に係るヒアリング項目だが、大体1時間から1時間半で組んでいるので、大きく4分割するとして、質問項目を三つくらい上げたい。

一つは、まちづくり計画を策定するに当たって皆が困っておられる課題、悩み事など。もう一つは地区まちづくり推進委員会運営上の困り事。これも若い方々あるいは女性の参画が重要だと思う。そういったことも含め、運営上の悩み事等についても聞きたい。もう1点は、当委員会あるいは市に対して求めるもの、期待するものは何か。そういった質問も投げ掛けたい。主にその三つの質問項目を事前にお送りし、それを基に意見交換できたらと思う。最終的には四つ目が提言書も見ていただきながら、総合的な意見交換になればと思う。

このような感じで一応、よろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように決定しておきたい。柔軟に当日対応していただければと思う。

○村武委員

時間はどれくらいあるのだったか。

○小寺書記

それは次の議題で。

○西田委員長

では(1)の内容は以上で、次へ移る。

(2) 実施方法確認

○西田委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○西田委員長

日程的な部分は表のような状況なのでそれで確認し、了解いただきたい。弥栄についてはもう1、2名、もし出席しようという方がおられたらありがたい。

○柳楽委員

最終日なので行かせていただく。

○西田委員長

では弥栄は柳楽委員を追加とする。ほかにあれば言ってほしい。

これから立ち上げる分の話もあったが、それについてはどうしようか。わざわざ出向くのが良いのか、それともアンケート等書面ヒアリングという形にしようか。日程も大変タイトで、あまり来年ゆっくりというわけにもいかない。定例会議中でもある。議員それぞれが年末は忙しいと思うし、事務局も大変かと思う。できればヒアリングを書面でやらせてもらえばすごく良い気もするのだがどうだろうか。対面して聞くのが一番良いのではあるが。

○柳楽委員

書面で良い。

○西田委員長

事務局的にはどうか。

○小寺書記

良いと思う。また後でどういったことを聞くかは調整した上で。

○西田委員長

先ほどの内容に近いもので。

○村木委員

聞く範囲や単位は。組織があるところは組織に聞けば良いが、組織がないところはどういう単位で聞くか。

○小寺書記

準備会があるので。

○西田委員長

準備会に投げ掛けて聞きたい。

○村木委員

対象者ははっきりしていると理解した。

○西田委員長

少し休憩する。

[14 時 08 分 休憩]

[14 時 37 分 再開]

○西田委員長

委員会を再開する。

まちづくり推進委員会を立ち上げる準備段階のところは6か所あると聞いている。その方々に対しては直接ヒアリングするのではなくヒアリングシート、紙媒体で行いたい。その質問内容だが、立ち上げるに当たっては計画書が必要になるので、計画書策定に当たっての困り事や課題について、それから市に望む支援について、構成員について、今後議会と直接話したい考えがあるかについて、以上4項目をヒアリング項目として投げ掛けたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

事務局から何かあるか。

○小寺書記

アンケート形式ということで、やり方については担当課と調整させていただき、聞きたい項目が返ってくるようなやり方ができればと思う。

○西田委員長

ヒアリング項目のまとめについては以上で終わる。事務局。

○小寺書記

地区まちづくり推進委員会との意見交換については、開催概要の内容で委員派遣をしているので、委員で行ってもらいたい。弥栄は柳楽委員が追加で、西田委員長と上野副委員長の3名にお願いできればと思う。当日の準備や片付けについても委員でやっていただくようよろしくお願いします。

○西田委員長

班ごとに直前の打合せなどもお願いします。

(3) その他

○西田委員長

その他、何かあるか。

(「なし」という声あり)

では議題1は終了する。

2 提言内容確認について

(1) 修正箇所確認

○西田委員長

正副委員長と事務局とでざっくり訂正したものを掲載している。事務局。

○小寺書記

補足する。赤字部分が修正箇所である。

「はじめに」の部分だが、芦谷委員から「推進されたい」としてはどうかと意見があったが、ここは提言ではなくはじめの部分なので、「推進することを望む」という表現を残した。

(5)の「全市民で協働のまちづくりを進めるために」の上段は村木委員と調整が必要な部分ということでそのままにしている。そのほかにご指摘があればいただきたい。

○西田委員長

ご意見があれば伺う。

○村武委員

(6)の赤字部分だが、これは前回何か話し合っ、入れることになったのだったか。

○小寺書記

名称はあえて残した状態で地区まちづくり推進委員会の方に見てもらい、名称の統一についてどう思うか確認してもらおう。

○村武委員

私は良いと思うが、会派から、(5)のキャッチコピーの部分について「できる人が、できる時に、できる事を」がすごく良いと。これを提言書の表紙に、サブタイトルのように書き加えたら良いのではとの提案が出た。

○西田委員長

良いと思う。

○柳楽委員

これまでの提言書にも、大見出しの下に何かしらあったことがあると思う。

○西田委員長

現在のタイトルの下にこのキャッチコピーを入れるということで良いか。

(「はい」という声あり)

ではそれを入れることにする。ほかにあるか。これで最終的にコンクリートではないので、まだ多少の修正はできる。地区まちづくり推進委員会との意見交換が終わってから最終的に、完全に仕上げていきたいと思っている。それで良いか。

(「はい」という声あり)

○村木委員

私がまだ調整してない部分があるので、後ほどLINE WORKSかどこかに載せさせてほしい。今日は間に合わず申し訳ない。

(2) その他

○西田委員長

その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

○小寺書記

では、村木委員の加えたところと。表紙は一旦置いておく。この中身を地区まちづくり推進委員会と当委員会との意見交換会の際に資料として持っていき、中身を見てもらおうと思う。それで良いか。

○西田委員長

はい。提言内容の中身は資料として提出し、意見交換の参考としたい。

○小寺書記

ヒアリング項目は事前に送ろうと思うが、この提言書案は紙ベースでこちらから必要分持っていき、終わりのところで出す形で考えているが良いか。

○柳楽委員

今言われたのは、当日その場で、時間帯になったら見てもらおうということか。そこで見てもらってすぐ意見をというのは難しいかと思うが。

○西田委員長

まちづくりセンターに資料としてある程度の数を送り、出席者に事前配布できれば。

○小寺書記

委員長と話した中で、提言メインの意見交換にならないほうが良いとのことだったので、まっさらな状態でヒアリング項目をやってもらう。それを事前に送っておくことにより、それについての意見交換になってしまうのが少し微妙なので、先に送らないほうが良いと結論を出した。

軽く目を通してもらい、こちらから聞きたいことが何点か当然あるのと、軽く見た感覚でどういう意見が欲しいかということで、そういう想定をしていたのだがどうか。

○西田委員長

白紙状態のほうが率直な、素直な意見が出やすいかと思ったので。

○小寺書記

一方、急に出されて意見を求めても、正直難しいだろうという気持ちも多分にあるので、どういうやり方が良いか。

○上野副委員長

早目に渡すと、ぐちゃぐちゃになりはしないか。早目に渡さないほうが良い。

○小寺書記

早目に渡して、指摘が細かく入り過ぎるのはどうかと。提言を直してもらうための意見交換ではない。

○柳楽委員

限られた時間の中でこれを全て読んで、何か意見をいただくというのは難しいと思う。地域協議会などでも、ここを出されてすぐに意見を求められても難しいという話が出ることもある。

○村武委員

最初から配らないというのは。

○柳楽委員

そのほうが混乱しないかもしれない。

○西田委員長

細かく言われたら切りがない。一切配らないという選択もある。我々の頭にはこの提言書があるので、先ほどのヒアリング項目をもとに意見交換しながら、提言書の中身を良いほうへアレンジできるなら変えていきたいといった感覚でやるのもありだと思う。配るか、配らないか、タイミングは。そのあたりはどうか。限られた時間なら、配らないほうが良いだろうか。

○柳楽委員

短時間の中でこれを読んで理解して意見をいただくのはなかなか難しい気もするので、例えば最初に皆で話をしている中で、ここは確認しておきたいという点を各委員がその場で投げ掛ける。あくまでも委員はこの提言書を根本に置きながら、というやり方が良い気がする。

これまでの会議で、これを見ていただいてということをおも言っていたかと思うが、時間が限られているのでやり方を変えても良いかと思う。

○村武委員

私もそう思う。提言に特化しているのでなければ、最初から配らずこちら側がそこを意識して聞く形で良いと思う。もし配るなら事前に配っておいたほうが良い。当日配付はなかなか難しい。

○西田委員長

議会に対して要望を受ける意見交換ではなく提言に向けてのものなので。市民の役割、まちづくりセンターのあり方、コーディネーターについてもある。良い提言に結び付ける意見を引き出せるようこちらから投げ掛けられることを意識していけたら良い。提言書は配付しないということで良いか。

(「はい」という声あり)

○柳楽委員

(6)の赤字部分は、共通して必ず確認をしたい。

○西田委員長

名称の統一を検討されたいという件は、どの会場でも意見交換内に入れるということで良いか。

○村武委員

これに対してどう思うかということ。

○西田委員長

これを消すかどうか提言内容が変わる。質問に入れよう。ほかに何かあるか。

○小寺書記

先ほど上野副委員長の聞きたいことというので、印刷機などを使っているかどうかというのがあったが、それはどうするか。

○西田委員長

印刷や資料作成はどうされているか。それも入れようか。まちづくりセンターの人に依頼して資料を作っているところが多いのではないかという気はする。

○村武委員

最初に何を聞くか協議したときには、提言書を後から見てもらうということだったと思うので、まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりなどは、提言に出てくるので良いかと思っていたのだが。印刷機の件もまちづくりセンターとの関わりの中に入るように思うので、まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりは、全部聞かなくても良いのか。

○西田委員長

まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりの中で、資料作成や印刷機を使うか使わないか聞かれても良いし、別で聞かれても良い。何らかの形で聞ければ良い。

○村武委員

聞いたほうが良いのか。

○西田委員長

まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりの中にも出てくるかもしれないが、確認の意味で一応聞いてもらいたい。

○小寺書記

村武委員が言われた、まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりというのは、最初のヒアリング項目に入れてなかった。入れたほうが良いということか。

○西田委員長

入れるか。どうしようか。

○柳楽委員

ヒアリング項目に付け加えるというのは、まちづくりセンターやコーディネーターとの関わりについてか。入れて良いのでは。それに市も入れて。立ち上げ準備中のところには市職員が行っていると聞いているが、立ち上がっているところにどの程度関わっているか。

○村武委員

ヒアリング項目は事前に出すのだったか。

○小寺書記

はい。

○西田委員長

現在の項目がざっくり四つくらいなので、もう一つくらい増えても。そうしようか。項目を一つ入れる。確認の意味で。

○小寺書記

はい。

○西田委員長

ほかに何かないか。全体で何か。特になければ。

○村武委員

聞きたい内容のところで、1ページ目⑮の上から3番目、「地域住民にどのような働き掛けをしていったのか」とあるが、ここが少し気になる。浜田地域では、地区まちづくり推進委員の方々は色々活動や課題を考えるが、地域住民を巻き込むのはなかなか難しい。ほかの地域はどのようにしているか気になるので、ここで聞いてみたい。

○西田委員長

意識の温度差がまちまちなので。本を正せば生涯学習都市宣言から始まって、意識が少しずつ変化している。公民館内の生涯学習推進委員会、途中から地区まちづくり推進委員会に変わり、生涯学習推進委員会とは違う組織ができ、時代の流れとともに皆がやっていくものだという意識が住民の中に浸透していったという流れがある。地域の自治会組織、その自治会の中に小組組織がある。一番小さいのが小組組織。一つの集落が自治会を担う場合もあるし、二つの集落が一つの自治会を担う場合もある。しかしその一つの集落の中に、数戸から10戸単位の小組組織がある。それが配付物の世話や情報伝達をする。そういった小さい組織が安否確認をやり、地域内で向こう3軒両隣に近い組織の塊となっている。その上の自治会組織の中から、公民館で何々推進委員会があるから誰かが出る。一番は小さい組織の塊で、そこからどんどん大きい組織につながっていくのだが、それが結局何のための組織なのかというと、地域のまちづくりのため。その中で自分たちは何ができるか。行政には何をお願いしなければいけないか。そういったところを皆で話し合いながら進めていったのが経緯である。

1軒1軒が隣近所で話をするのが基本かと思う。1人では何も分からないが、誰かが話をするとうち掛けるきっかけになる。近所のつながりだと思う。

○村武委員

まちづくり委員会で例えば、課題があってこういう活動をしようと思ったら、それを下に下ろして行って小組の中で誘い合って参加者が増えて行って皆でやっていくということか。

○西田委員長

小組の末端の人同士のつながりが上へ押し上げていく。ボトムアップとトップダウンの違いか、両方良い形でやらなければいけない。

○村武委員

浜田地域ではそういうことが難しいと思っている。しかし困り事の中にこういうことが出てくるかもしれない。あえて質問内容に入れなくても良いかもしれない。

○西田委員長

岡本議員はいつもそれで悩んでおられた。

○村武委員

しかし本当にそうなのだ。浜田地域はそこができてないところがあるので、上から下りてこない、下からも上がっていかない。

○西田委員長

コーディネーターが間に入って、一緒になって、皆で共通の意識を持つのは何か、

防災か。皆で思いを寄せ合うような何かを投げ掛けることをやっておられる。

○柳楽委員

今話を聞きながら、「働き掛けをしていったのか」とあるということは、立ち上げ段階の話なのか。進行形なら、「しているか」となりそうだが。

○西田委員長

していったから今でき上がっている。

○柳楽委員

立ち上げの話に限るのか、それとも全体の話か。

○小寺書記

立ち上げのことだが、もうできているところには立ち上げのときどうだったかを聞きたいということで入れている。

○柳楽委員

理解した。アンケートのようなものをされたところもあるのか。

○西田委員長

それは班ごとに行った先の話の中で聞かれても良いと思う。

○柳楽委員

大事なところである。

○芦谷委員

今の問題で、町内会に加入、未加入、広報は直接配る、回覧板は回らないという家があると思う。基本的に隣近所の付き合いみたいな整理をしていかないと。回覧板が回らないところもある。

○西田委員長

参加したくてもできないこともあるかもしれない。地域内の人間関係など、さまざまあると思う。いずれにせよ意識が良いほうへどう変わっていくか。水と油ならなかなかなじめないということは多々あると思う。それをどうするか。

3 その他

○西田委員長

全体を通じて、その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

○小寺書記

なければ次の委員会日程を確認したい。ヒアリングを13日までに実施されて、報告を出してもらおう。その報告を踏まえて、意見交換してどうだったかを言ってもらったり、提言にどう生かそうか話し合ったりするような委員会をやりたい。

(以下、日程調整)

○西田委員長

では次回委員会は12月25日月曜日、午後1時半からにしたい。

○小寺書記

報告締切りは18日月曜日の8時30分で良いか。

○西田委員長

報告締切りは12月18日月曜日の朝8時30分ということにする。それで良いか。

(「はい」という声あり)

全体でほかにないか。

(「なし」という声あり)

以上をもって協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[15 時 19 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久